

2022年度事業者防災訓練 抽出した課題とその対策

1. 2022年度訓練で確認された課題

(1) 2022年度訓練で確認された課題

下記のカテゴリーに分類し、それぞれに対する原因分析、対策案を表-1に示す。

(2) 内部レベルアップ事項

上記(1)で確認された課題のうち、内部レベルアップ事項について、下記のカテゴリーに分類し、それぞれに対する原因分析、対策案を表-2に示す。

2. 情報フローについての自己評価

情報フロー図に問題点・改善点は無かった。

表-1

分類	項目	①問題点/課題、②原因、③対策	
1. 通報	1-1. ERCとの情報共有	①問題点/課題	事象の進展状況並びに応急措置の計画及び実施状況をERCプラント班に説明するときに戦略シートを活用できず、ERCとの情報共有が十分になされなかった。 備付資料の活用が上手くできず、施設状況等の説明がうまくできなかった。
		②原因	戦略シートを活用した情報共有に慣れていなかったことが原因である。
		③対策	①必要と考えられる書架資料を事前に準備する。 ②ラベリングをするなどして使いやすくすること。 ③要素訓練を事前に行い習熟を図る。

表-2

分類	項目	①問題点/課題、②原因、③対策	
1. 発災現場対応	1-1. 発災原因究明	①問題点/課題	エリアモニタの線量上昇の原因が当該モニタの不具合であったと断定したが、その過程において、火災の発生場所付近だけでなく当該モニタ付近についても空間放射線量測定を行うべきであった。
		②原因	原因となる可能性のあるものを列挙せず、計画的に事実確認をしなかったことが原因である。 ①助言する者がいなかったのか ②CKリスト的なものの欠如 ③時間的な切迫度がどうか
		③対策	発災原因を迅速かつ的確に特定するために戦略シートを活用するとともに、要素訓練を通して習熟を図る。
2. 通報	2-1. ERC対応	①問題点/課題	ERC対応者がERCプラント班に事象の状況を説明するときに時系列に沿った報告をしており、重要な情報がERCプラント班に報告できなかった。
		②原因	報告内容の重要度を意識せずに事象の状況を説明したことが原因である。 ①報告が発生順に沿ってのみであったこと。 ②電話のみでの情報提供であったこと。
		③対策	報告内容の重要度を意識して事象の状況を説明できるように、要素訓練を通して習熟を図る。 ①軽重の区分を明文化し、10条・15条終束のための方策（戦略）の報告を必須とする。 ②TV会議システム（書画）の導入の検討